

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年6月11日(月)～平成30年6月17日(日)〔平成30年第24週〕の感染症発生状況

第24週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)伝染性紅斑でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.30人と前週(7.92人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.68人と前週(3.76人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は2.65人と前週(2.35人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



## 夏場に気をつけたい感染症～腸管出血性大腸菌感染症～

腸管出血性大腸菌は、強い毒素を産生する大腸菌で、代表的なものとして、O157やO26などが知られています。厚生労働省によると、現在、関東地方を中心に同一の遺伝子型の菌を原因とする感染症・食中毒事案が発生しており、感染原因の究明に向けて調査が行われているとことです。

例年、7～9月にかけて患者数が増加するため、予防対策の徹底が重要です。

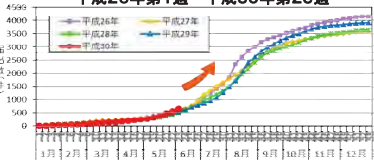
### 腸管出血性大腸菌感染症とは？

【感染経路】  
・菌に汚染された食品などによる経口感染  
・患者の便を介した二次感染

【潜伏期間】  
1～14日間(平均3～5日間)

【主な症状】  
激しい腹痛、頻回の水様性下痢や血便など  
※無症状のこともあります。溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症などの重症合併症を起こすことがあります。

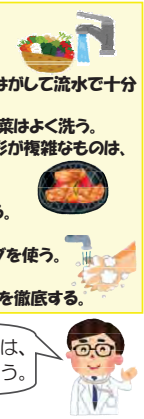
全国における腸管出血性大腸菌感染症発生状況  
-平成26年第1週～平成30年第23週-



### 〈予防対策〉

- 食中毒予防
- 野菜類-  
・レタスなどの葉菜類は、一枚ずつはがして流水で十分に洗う。  
・きゅうりやトマトなどで生で食べる野菜はよく洗う。  
・フロッキーやカリフラワーなどの形が複雑なものは、熱湯で湯がく。
- 肉類-  
・肉類は中心部まで十分に加熱する。(75℃1分以上)  
・肉を焼く際には、専用の管やトングを使う。
- 二次感染予防  
・食事の前、排便後などには手洗いを徹底する。

激しい腹痛や血便がある場合は、直ちに医療機関を受診しましょう。



川崎市 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年6月18日(月)～平成30年6月24日(日)〔平成30年第25週〕の感染症発生状況

第25週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)伝染性紅斑でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.81人と前週(7.30人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.57人と前週(4.68人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は3.16人と前週(2.65人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



## 百日咳の報告数が増加しています！

百日咳は、百日咳菌を原因とする急性の細菌感染症で、典型例では特有のけいれん性の咳発作がみられます。

川崎市内においては、平成30年第23週(6月4日～6月10日)以降、特に中原区、高津区などの限定された地域からの報告数が増加しています。年齢階級別では5～9歳が多く、14歳以下が全体の76.3%を占めています。ほとんどの事例でワクチン接種歴がありました。周囲で百日咳の流行があり咳症状がみられる場合には、特に乳児との接触は避け、早めに医療機関を受診しましょう。

### 百日咳とは？

【感染経路】  
飛沫・接触感染

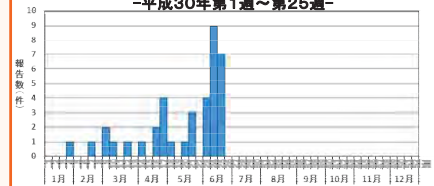
【潜伏期間】  
おおむね7～10日間

【症状】  
臨床経過により3期に分けられます。  
・カタル期：かぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。  
・痙咳期：短い咳が連続的に起こり、続いて、息を吸う時に笛の音のような音が出る咳発作がみられる。  
・回復期：激しい発作は次第に減衰し、2～3週間程度で認められなくなる。

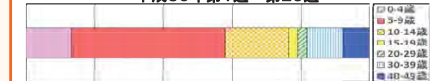
【予防方法】  
百日咳含有ワクチンの接種(DPT-IPVなど)



川崎市における百日咳発生状況  
-平成30年第1週～第25週-



川崎市における百日咳年齢階級別発生状況  
-平成30年第1週～第25週-



※学校保健安全法では、特有の咳が消失するまで又は5日間の適切な抗感染療法が終了するまで出席停止です。

川崎市 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

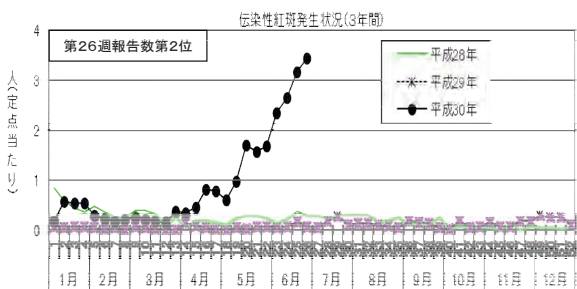
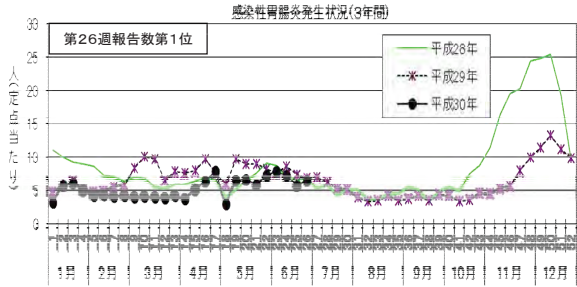
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

## 平成30年6月25日(月)～平成30年7月1日(日)〔平成30年第26週〕の感染症発生状況

第26週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)伝染性紅斑 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.56人と前週(5.81人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は3.44人と前週(3.16人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.36人と前週(4.57人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

★RSウイルス★  
 アルエースーくん

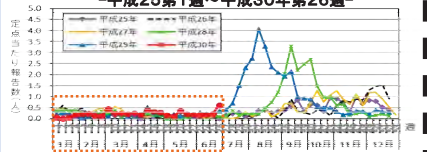


## 流行の兆しか?～RSウイルス感染症～

RSウイルス感染症は発熱、咳、鼻汁を主症状とする呼吸器感染症で、2歳までにほぼ100%の児が感染するといわれています。かつては秋や冬が流行のピークでしたが、昨年は7月から9月にかけて大きな流行がみられました。

川崎市では3月以降、過去5年間と比較してやや高いレベルで推移しており、第26週(6月25日～7月1日)は定点当たり患者報告数が0.61人と前週(0.22人)から急増し、昨年よりも2週間程度早く報告数が増加し始めました。

### 川崎市におけるRSウイルス感染症発生状況 ～平成25年第1週～平成30年第26週～



### ＜平成30年と過去5年間平均との比較＞



### RSウイルス感染症

- ◆感染経路  
 咳や鼻水などによる飛沫・接触感染
- ◆潜伏期間  
 2～8日(典型的には4～6日)
- ◆症状  
 発熱・咳・鼻水などの風邪様症状が数日続きます。多くは軽症ですが、咳がひどくなり、喘鳴や呼吸困難などの症状がでて、細気管支炎や肺炎へと進展するお子さんもいます。
- ◆予防方法  
 手洗い、おもちゃの消毒(消毒後、必ず流水で洗う。)

生後3か月以下の乳児やリスクの高い基礎疾患を有する小児(特に早産児、生後24か月以下で心臓や肺に基礎疾患がある小児、神経・筋疾患や免疫不全の基礎疾患を持つ小児等)では重症化することがあります。



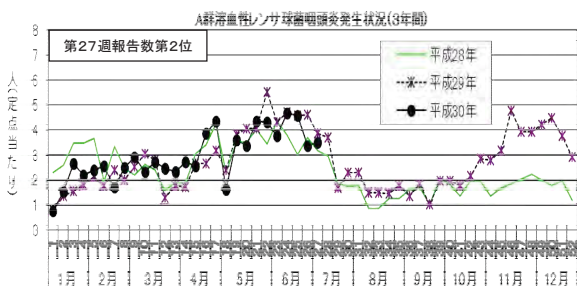
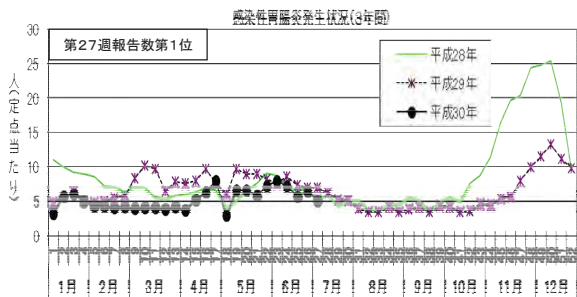
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター  
 (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

## 平成30年7月2日(月)～平成30年7月8日(日)〔平成30年第27週〕の感染症発生状況

第27週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)伝染性紅斑でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.11人と前週(6.56人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.49人と前週(3.36人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は2.08人と前週(3.44人)から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



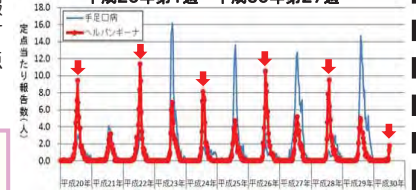
## 1年おきに流行がみられています!～ヘルパンギーナ～

例年、夏季に流行する疾患として「手足口病」や「ヘルパンギーナ」が知られていますが、いずれもエンテロウイルスを原因とする感染症です。

川崎市では、過去10年間において手足口病とヘルパンギーナが1年おきに流行しており、今年はヘルパンギーナの患者報告数が増えることが予想されます。

平成30年第27週(7月2日～7月8日)のヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は1.76人と例年並みのレベルですが、多摩区では流行発生警報基準値(定点当たり6人)を超えています。手洗い等の予防対策を徹底しましょう。

### 川崎市における手足口病とヘルパンギーナの発生状況 ～平成20年第1週～平成30年第27週～



### 川崎市におけるヘルパンギーナ分布マップ(第27週)



川崎市感染症情報システム(KI DSS)

### ヘルパンギーナとは?

- 感染経路: 飛沫感染、接触感染、糞口感染
  - 潜伏期間: 2～4日
  - 症状: 突然の発熱(38～40℃)、のどの痛み、のどに白い水疱性の発疹や潰瘍
- ※発熱時に熱性けいれんを伴うことがありますが、ほとんどは予後良好です。また、まれに髄膜炎、心筋炎等を合併することもあります。

### 注意点

症状改善後も長期(約1か月)にわたり便中にウイルスが排出されますので、特にトイレやおむつ交換の後は念入りに手を洗いましょう。



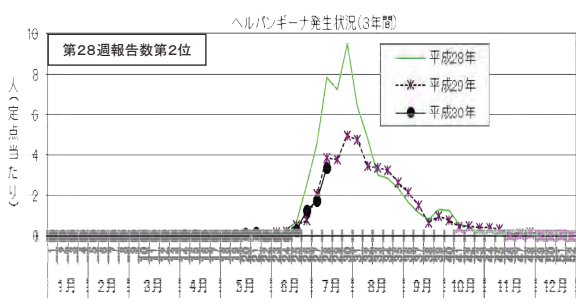
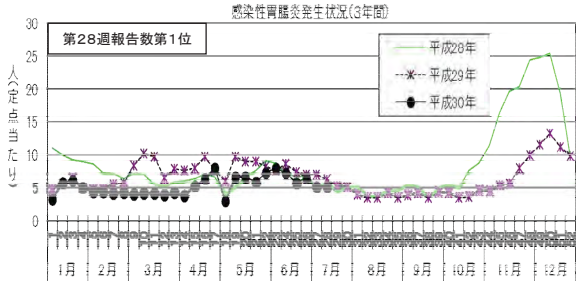
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター  
 (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

## 平成30年7月9日(月)～平成30年7月15日(日)〔平成30年第28週〕の感染症発生状況

第28週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) ヘルパンギーナ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.11人と前週(5.11人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.38人と前週(1.76人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.32人と前週(3.49人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



## 百日咳の報告地域が拡大しています！

百日咳は、特有のけいれん性の咳発作を特徴とする急性気道感染症です。市内では平成30年第23週(6月4日～6月10日)以降、中原区、高津区からの報告が中心でしたが、第26週(6月25日～7月1日)以降、他の地域からも報告されるようになり、20歳未満が80%を占めていました。全国においても平成30年第1週から第16週までの報告のうち20歳未満は66%と多く、6か月未満児の推定感染経路は両親が46%を占めていました。成人では症状が典型的ではないため、病院への受診や診断が遅れることもあり、ワクチン未接種の乳児への感染源となりますので御注意ください。

### 百日咳とは？

- ◆感染経路 百日咳菌の飛沫・接触感染
- ◆潜伏期間 おおむね7～10日間
- ◆症状 臨床経過は3期に分けられます。
  - カタル期(約2週間持続) かぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増え程度も激しくなる。
  - 咳咳期(2～3週間持続) 短い咳が連続的に起こり(スタック)、続いて、息を吸う時に笛の音のような音が出る(笛声)咳発作がみられる。
  - 回復期(2、3週間～) 激しい発作は次第に減衰し、2～3週間で認められなくなる。
- ※免疫が不十分な1歳以下(特に6か月未満)の乳児が感染すると、死に至る危険性があります。
- ◆予防方法 百日咳含有ワクチンの接種



### 全国における6か月未満症例の百日咳推定感染経路別発生状況(平成30年第1週～第16週)

患者数	割合
母親	11人 23%
父親	11人 23%
同胞	15人 32%
祖父	2人 4%
その他	6人 13%
不明	15人 32%

(n=47) 重複あり

両親や同胞(兄弟)からの感染が多くなっています。



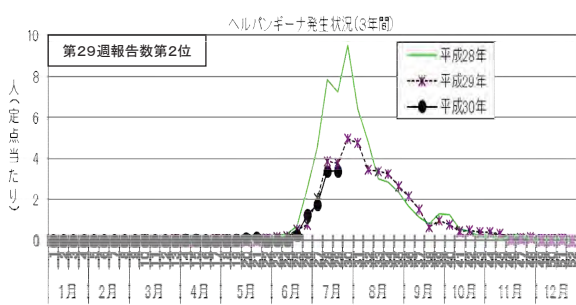
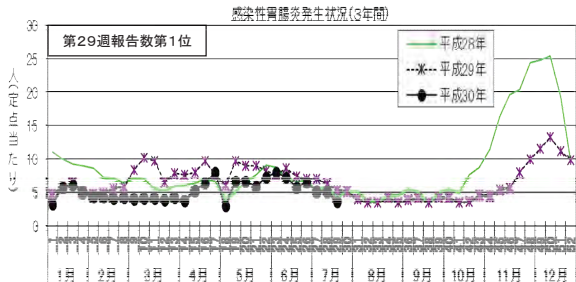
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

## 平成30年7月16日(月)～平成30年7月22日(日)〔平成30年第29週〕の感染症発生状況

第29週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) ヘルパンギーナ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.62人と前週(5.11人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.35人と前週(3.38人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.30人と前週(3.32人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



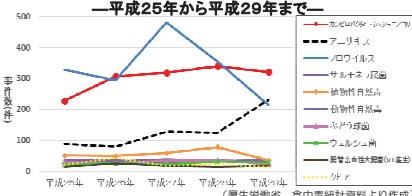
## ～食中毒警報が発令されました！！～

神奈川県では、気象条件などの解析により食中毒発生の可能性が高まったことから、平成30年7月19日(木)に食中毒警報を発令しました。今年は昨年よりも8日早い発令日となりました。

気温が上昇すると、カンピロバクター、腸管出血性大腸菌(O157、O111等)、黄色ブドウ球菌、腸炎ブドウ球菌等の細菌による食中毒が起こりやすくなります。

細菌性食中毒には、細菌を原因とする感染型と細菌が産生する毒素を原因とする毒素型があります。毒素は熱に強く、通常の加熱では毒性を失わないことから、調理した食品等は早めに食べましょう。

### 全国における病因物質別食中毒発生状況(平成25年から平成29年まで)



## 食中毒予防の3原則

### つけない

手洗いの徹底！  
器具の使い分け！

◆調理の前、生の魚や肉をさわった後は、手をよく洗いましょう。

### 増やさない

低温で保存！  
冷蔵や冷凍！

◆細菌の多くは、10℃以下では増殖がゆっくりとなり、マイナス15℃以下では増殖が停止しますので、食品は低温で保存しましょう。

### やっつける

十分な加熱！  
器具の消毒！

◆食品の中心温度を75℃で1分以上加熱しましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年7月23日(月)～平成30年7月29日(日)〔平成30年第30週〕の感染症発生状況

第30週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) ヘルパンギーナ 3) 流行性角結膜炎でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.43人と前週(3.62人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は4.27人と前週(3.35人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。  
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は3.11人と前週(2.25人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



## 夏季に気を付けたい感染症～手足口病・ヘルパンギーナ～

手足口病やヘルパンギーナは、乳幼児を中心に夏に流行するウイルス感染症です。川崎市では、6月下旬以降ヘルパンギーナの報告数が増加しており、第30週(平成30年7月23日～7月29日)の定点当たり患者報告数は4.27人となりました。一方、手足口病は例年と比べて低いレベルで推移しています。いずれの疾患もエンテロウイルス属のコクサッキーウイルスなどを原因とする感染症です。今年度、健康安全研究所にヘルパンギーナとして搬入された検体からは、コクサッキーウイルスA2型やA4型が検出されています。

### ヘルパンギーナの症状

- 突然の高熱(38～40℃)、咽頭痛(のどの痛み)、のどに白い水疱性の発疹や潰瘍
- 通常は2～4日程度で解熱
- ※ 発熱時に熱性けいれんを伴うことがありますが、ほとんどは予後良好です。また、まれに髄膜炎、心筋炎等を合併することもあります。

### 手足口病の症状

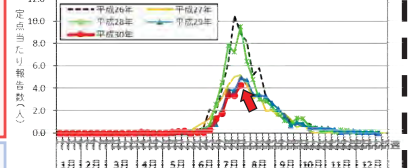
- 手のひら、足の裏、口の中などに水疱性の発疹、発熱(38℃以下のことが多い)
- 通常は軽症
- ※ まれに重症化して髄膜炎や脳炎などを引き起こすことがあります。

### 予防対策

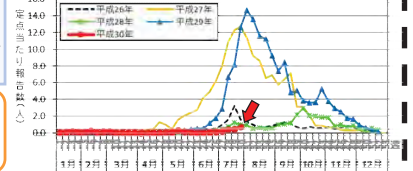
- トイレやおむつ交換の後は、排泄物を適切に処理し、念入りに手洗いをします。
- タオルの共用は避ける。



川崎市におけるヘルパンギーナ発生状況(5年間)



川崎市における手足口病発生状況(5年間)



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年7月30日(月)～平成30年8月5日(日)〔平成30年第31週〕の感染症発生状況

第31週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) ヘルパンギーナ 2) 感染性胃腸炎 3) 流行性角結膜炎でした。  
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は4.73人と前週(4.27人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.24人と前週(4.43人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.89人と前週(3.11人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



## 報告数が急増しています！～RSウイルス感染症～

近年、RSウイルス感染症は全国的に流行のピークが早まっています。川崎市においても平成30年第31週(7月30日～8月5日)の定点当たり患者報告数が2.03人と前週の定点当たり0.89人から急増し、8月にもかわらず昨年と同様に流行がみられています。地域別では、宮前区を中心に報告数が多くなっており、保育園などでのRSウイルス感染症による欠席者も増加しています。

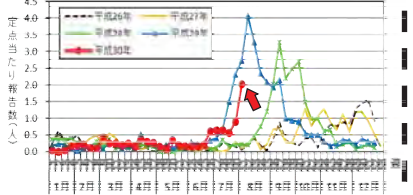
### RSウイルス感染症とは？

- 感染経路  
咳や鼻水などによる飛沫・接触感染
- 潜伏期間  
2～8日間(典型的には4～6日間)
- 症状  
発熱・咳・鼻水などの風邪様症状が数日続きます。多くは軽症ですが、咳がひどくなり、喘鳴や呼吸困難などの症状がでて、細気管支炎や肺炎へと進展するお子さんもいます。※ 2歳までにほぼ100%のお子さんが感染するといわれています。

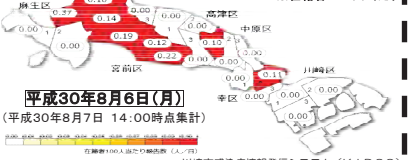
### ＜予防対策＞

- 手洗いの徹底
- おもちゃの消毒(消毒後、必ず流水で洗う。)
- 飛沫感染対策として大人はマスク着用

川崎市におけるRSウイルス感染症発生状況(5年間)



学校・保育園等欠席者サーベイランス  
 【RSウイルス感染症と診断された保育園児報告数\*】  
 ※ 在籍者100人当たり



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年8月6日(月)～平成30年8月12日(日)〔平成30年第32週〕の感染症発生状況

第32週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)ヘルパンギーナ 3)流行性角結膜炎でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.26人と前週(4.24人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は4.09人と前週(4.73人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。  
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.67人と前週(2.89人)から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。

★大腸菌O157★  
イーコリくん



## 腸管出血性大腸菌感染症が急増しています！

腸管出血性大腸菌感染症(O157など)は毒素を産生する遺伝子を持つ大腸菌の感染によって起こり、腹痛、水様性下痢や血便を主症状とする感染症です。川崎市内では7月下旬以降、毎週1～2名の患者が発生しており、平成30年第32週(8月6日～8月12日)には届出数が5件にのびました。大腸菌が最も増殖する温度は37℃といわれており、今後も暑さが続くことと感染のリスクが高まりますので、手洗いなどの予防対策を徹底するとともに、肉類は加熱(75℃で1分以上)を十分に行うことで感染を防ぎましょう。

腸管出血性大腸菌感染症とは？

【感染経路】

- ・菌に汚染された食品などによる経口感染
- ・患者の便を介した二次感染

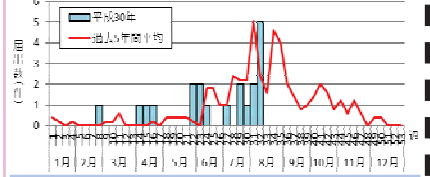
【潜伏期間】

1～14日(平均3～5日)

【主な症状】

激しい腹痛、頻回の水様性下痢や血便など  
 ※無症状のこともあります。子どもや高齢者では、溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症等の重症合併症を起こしやすいといわれています。  
**激しい腹痛や血便がある場合には、直ちに医療機関を受診しましょう。**

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症発生状況  
 -平成30年(第32週まで)と過去5年間平均の比較-



＜予防対策＞

- ・生肉または加熱不十分な肉を食べない。(加熱は75℃で1分以上)
- ・肉を焼く際には、専用の器具(箸やトングなど)を使用する。
- ・生野菜などはよく洗う。
- ・食事の前、排便後などにはしっかり手を洗う。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年8月13日(月)～平成30年8月19日(日)〔平成30年第33週〕の感染症発生状況

第33週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)RSウイルス感染症でした。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は2.77人と前週(4.00人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.40人と前週(2.47人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.27人と前週(1.78人)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

★風しんウイルス★  
ルペラくん



## 風しんの患者報告数が増加しています！！

風しんは、風しんウイルスを原因とする急性発疹性の全身感染症で、発熱、発疹、リンパ節腫脹を主症状とします。妊娠20週頃までの妊婦が感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴などの症状を呈する先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。

7月下旬以降、首都圏を中心に風しんの患者報告数が増加しており、川崎市においても、平成30年第33週(8月13日～8月19日)までに計7件の患者が報告されています。風しんの流行に伴う先天性風しん症候群を予防するためには、ワクチン接種が重要です。

平成30年度川崎市風しん対策事業について

川崎市では、川崎市風しん対策事業として次のとおり風しん抗体検査と予防接種を実施しています。

1)風しん抗体検査

【対象者】

川崎市に住居登録がある方で、原則として風しんに罹患したことがなく、今までに川崎市の事業を利用して予防接種又は風しん抗体検査を受けたことがない方(1歳未満に該当する方。年齢制限はありません)

- ・妊娠を希望する女性
- ・妊娠を希望する女性のパートナー
- ・妊婦のパートナー

【自己負担額】無料

2)予防接種(MRワクチン)

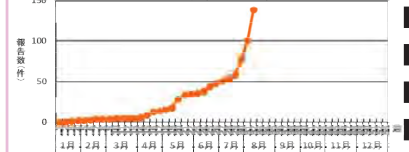
【対象者】

風しん抗体検査の結果、抗体価が十分でなかった方

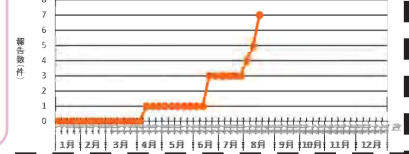
【自己負担額】3,200円



全国における風しん累積報告数  
 -平成30年第1週～第32週-



川崎市における風しん累積報告数  
 -平成30年第1週～第33週-



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250